

熊本記念植物採集会月報（同会）S. 62. 3月～
S. 63. 4月, 1987～88
Botany（熊本記念植物採集会）No. 37, 1987
Bull. Torrey Bot. Club (N. Y. Bot. Gard.)
Vol. 113, No. 4～Vol. 114, No. 4, 1986～87
2. 図書・その他
原寛博士追悼の記（同博士記念事業会）1987
植物学ラテン語辞典（豊国秀夫）1987
収蔵資料目録一自然Ⅱ（秋田県立博物館）1987
秋田県地名索引（金井弘夫）1987
進野久五郎植物コレクション（富山市科学文化セン
ター）
長野県のシダ植物（大塚孝一）1987

長野県植物誌チェックリスト 1988年版（長野県植
物研究会）1988
長野県街路樹白書（日本造園修景協会長野県支部）
1987
緑でつくる街の景観（山崎林治）1987
山野に学ぶ（信濃教育会）1987
高山市の植物（高山市）1987
植物目録（広島市植物公園）1987
隠花植物目録（シダ類）生駒標本Ⅱ（鳥取県立博物
館）1986
久万高原とその周辺の自然（愛媛県立博物館）1987
野草の会20周年記念記（熊本県 野草の会）1987

〔新刊紹介〕 豊国秀夫（編）「植物学ラテン語辞典」
386 pp. 1987, 至文堂, 東京, 9,000 円。

ラテン語の実力ではすでに定評のある編者が、植
物分類学の発展を願い、40年間の執念を实らせたの
がこの本である。本書は、辞典部（ラー和の部と和
一ラの部）と文法部の2部から成る。ラー和の部で
は、普通語約7800の語尾変化、和訳、英訳があり、
種子植物の約1100の属名について語尾変化、和名、
由来、所属科名が記されている。和一ラの部では、
約5400語がローマ字綴りでとり上げられ、日本語、
ラテン語がついている。とり上げられた語彙の中
には、現代の植物学の要請に応じて、物質名や花粉学
用語などがふんだんにみられるのはありがたい。文
法部は、長野県植物研究会誌14, 15, 18, 19各号に
「講座 植物学ラテン語初歩(1)～(4)」として掲載され
た記事を骨子としており、編者のラテン語の知識が
遺憾なく発露されているところである。18項からな
るこの文法部では、最後の文献の項を除き、学名の
解説にしる文法や記載文の説明にしる、必ず具体例
に基づいて、生き生きとした内容になっていて、
すぐにでも一つ書いてみようという気を起こさせる。
周知の通り、「国際植物命名規約」は、新分類群の
発表には、化石植物を除き、ラテン語の記載文や特
徴記述（diagnosis—編者訳）をつけることを義務
づけている。現実にはラテン語の作文は容易でない
が、この本の出現によって専門家も同好者も学名の
つけ放しということとはなくなるであろうし、今後は
誰でもが容易に新学名を正式に発表することができ
るようになるであろう。ただし、そのために、どこ
にでも新分類群の名や記載が登場するといった事態
は、編者は決して望んではいないと思う。（T. S.）

〔植物ニュース〕128. スギ（クマスギ）*Cryptomeria japonica* D. Don

県内の天然スギの分布は、主として北信地方であ
り、鬼無里村・堂津岳下部の奥裾花濁川上流にも分
布している。1983年10月28日の調査によると、標高
1,440 m 面積約0.5 ha, 胸高直径10～120 cm (平均31 cm),
樹高5～29 m (平均17 m), 本数146本で集団をつくっ
ており、林令も同一でなく幼稚樹が所狭しと発生し
ており天然更新が確実に進んでいる。下層植生はシ
ノブカグマ・ヒメアオキ等で、付近のブナ林とは異
なった様相を呈している。（元島清人）

129. ミドリワレモコウ *Sanguisorba officinalis* L.

ワレモコウの萼裂片が暗紅色ではなく、緑色にな
ったもの。萼裂片の色が薄くなるものは、まれにみ
かける。1987年8月12日 諏訪市 八島高原。

130. シロバナミヤマモジズリ *Gymnadenia cucullata* (L.) Richard.

ミヤマモジズリの純白花品を1987年8月26日諏訪
郡富士見町大字西岳で発見した。

ミヤマモジズリの花色は、赤紫が普通であり色の
変化はあるものの、純白品は少ない。5年前の1983
年9月17日南佐久郡の尾根筋で、花期の若干すぎた
白花品を数本確認しているが、現地は石灰岩地帯で
あった。富士見町のはアカマツ・ミズナラ林内
の下層に生じていた。ミヤマモジズリは八ヶ岳山麓
には多い。（元島清人）

131. ヤエタカネセンブリ *Swertia tetrapetala*
Pall. subsp. *micrantha* (Takeda) Kitamura
タカネセンブリの花弁が、八重（8枚）～重八重
（12枚）になったものが八方尾根に数本あった。

1987年9月5日 白馬村 八方尾根。（元島清人）